

宮古・盛岡・秋田横軸連携推進フォーラムを開催

道路環境課

平成 26 年 7 月 22 日、「宮古・盛岡・秋田横軸連携推進フォーラム」を盛岡市のサンセール盛岡で開催しました。

このフォーラムは、一般国道 106 号、46 号の沿線市町村における生活向上及び地域活性化のために、宮古盛岡横断道路（国道 106 号）、盛岡横手道路（国道 46 号）の利活用方法や、三陸沿岸地域と内陸部及び日本海を結ぶ連携のあり方について、岩手・秋田両県の関係者と沿線住民が一緒に考えることを目的に、宮古・盛岡・秋田間国道整備促進期成同盟会ほか 2 団体の主催により開催され、岩手・秋田両県、県道路利用者会議及び県高規格幹線道路整備促進期成同盟会も共催しました。

当日は、主賓了参議院議員、達増拓也岩手県知事をはじめ約 300 名が参加しました。国土交通省東北地方整備局副局長の安藤淳様と㈱日刊岩手建設工業新聞社取締役の宮野裕子様による基調講演、沿線市町村等による意見交換が行われ、参加者は高規格道路などの横軸道路の重要性を再確認するとともに、高度な道路管理の必要性についても強く認識しました。県では、このフォーラムの成果をもとに、国道 106 号の整備とともに、指定区間に編入し、国道 46 号等と併せ、国で一体的に管理するよう更に強く訴えていきます。



◆ 基調講演 国土交通省東北地方整備局
安藤 淳副局長
「道路を取りまくる最近の話題」

「人口減少に対応するための拠点間ネットワーク形成や、道路、鉄道、港湾といったインフラの多重性・代替性の確保はこれからの日本の課題であり、道路整備は重要性を増していく。また、道の駅は重要な観光拠点であり、関係機関との連携による活性化が期待される。」



◆ 基調講演 株式会社日刊岩手建設工業新聞社
宮野 裕子取締役
「横軸連携推進による期待と課題」

「秋田市と宮古市間の約 210km を 3 時間で行き交うことができれば、岩手・秋田両県の産業振興や人口減少の歯止めにつながると考えている。三陸海岸から見える朝日を楽しみ、そのまま国道 106 号、46 号を利用して秋田県沿岸に向かい、夕方には男鹿半島から見える夕日を楽しめる、そのような日が来ることを願っている。」

◆ 宮古・盛岡・秋田間の地域高規格道路整備と地域連携について

～沿線市町村等による意見交換～

コーディネーター 山本 正徳宮古市長

パネリスト

門脇 光浩仙北市長

佐藤 信逸山田町長

石原 弘田野畑村長

鎌田 潔秋田市副市長

久米 正雄大仙市副市長

佐野峯 茂滝沢市副市長

櫻田 久耕雫石町副町長

佐藤 悟岩手県県土整備部長



意見交換では、各市町村が抱える課題を踏まえ、更なる国道整備の推進を望む声が多く挙げられました。



達増拓也岩手県知事による挨拶



約 300 人の来場者で会場は熱気に包まれました

【主 催】

宮古・盛岡・秋田間国道整備促進期成同盟会、国道106号指定区間編入促進期成同盟会
国道106号地域高規格道路整備促進期成同盟会

盛岡市、滝沢市、雫石町、岩泉町、山田町、田野畑村、宮古市、秋田市、大仙市、仙北市

【共 催】

岩手県道路利用者会議、岩手県高規格幹線道路整備促進期成同盟会、岩手県、秋田県

【後 援】

国道46号「地域高規格道路」田沢湖・協和間整備促進期成同盟会

秋田・岩手地域連携軸推進協議会、NPO法人秋田岩手横軸連携交流会